



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第三一五号）

大寒 だいかん

一月二十日

田丸城跡ライトアップ

お城巡りがブームになっています。伊勢周辺の名城といえ、まっさきに三重県指定文化財・史跡の「田丸城跡」(玉城町)が上げられるでしょう。明治四年(一八七一)に城郭建造物は解体され、石垣や堀などが残るのみですが、「続、日本百名城」にも選ばれています。

田丸城は、南北朝時代の一三三六年に、北畠親房が南朝側の拠点として砦を築いたことが始まりです。その後、田丸(玉丸)氏ら一族が居城としていました。そのため、この城名があるようです。戦国時代は、織田信長の伊勢侵攻によって、次男の信勝の城となり、三層の天守閣が築かれます。

今、その天守の跡に日没から夜九時まで、暗闇にライトアップされた天守閣が浮かび上がっています。地域活性化や東日本大震災の復興を願って平成二十三年から始めたもので、およそ五万球ものLED電球を使って、今はない天守閣を再現しています。昼間に城跡を登ると、鉄パイプを組み立てた高さ十メートルほどの仮設天守閣が建っていました。壁を模した布には、殿様とお姫様のキャラクターの絵が飾られています。主催者の遊び心がうかがえます。

それにしても、幾重にもめぐらされた石垣は、見ごたえがあります。素人の目にも組み方などが異なり、時代ごとに修復工事がなされていたことがうかがえます。以前、城郭愛好家がここに五時間いたと教えてくれましたが、天守跡や本丸虎口など、見どころが多いそうです。

城跡のライトアップは一月末まで。寒中の夜の楽しみにいかがでしょう。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 節分の市

旧暦では、立春を一年の始まりとし、節分は現在の大晦日と同じように考えられていたため、昔から一年の幸せを願う様々な行事が行われています。おかげ横丁では、各お店が一斉に福を呼び込み、町中が福でいっぱいになる「節分の市」を開催します。

と き／1月25日(土)～2月3日(月)
10:00～17:00(催しにより異なる)
ところ／おかげ横丁一帯

● 縁起の市

お面や豆、厄除けいわしなどを揃えた賑やかな市です。

ところ／おかげ横丁内「特設屋台」

● 宝舟・豆まき

今年の福人(年男・年女)が、「宝舟の絵」と「豆」が入った小袋を太鼓櫓の上から降らせます。

と き／2月3日(月) 15:00～
ところ／おかげ横丁「太鼓櫓」

五十鈴塾

○ 鬼と節分

鬼といえば一般的に頭に角が1本か2本あって神はパンチパーマ風、眼はギョロリと大きく、口には牙が生え指には鋭い爪があります。虎の皮の腰布を付けて皮膚の色は赤や青黒が標準で金棒を持っています。かなり具体的ですがこれは7世紀頃に中国から入ってきた仏教画にあったものが変形していったといわれています。もともと目には見えない「モノ」であったとされ、その起源は色々で、時代によってどんどん飛躍していったようです。現在は節分の時くらいしか登場の機会がありませんが、中世以前は恐ろしいものの代名詞であったようです。節分に因んだ和菓子をいただきながら、興味深いお話をお伺いします。

と き／2月3日(月) 13:30～15:00
講 師／西山 克(京都教育大学名誉教授)
参加費／一般1,900円 会員1,400円(和菓子付)
場 所／五十鈴塾右王舎
※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

ふき とう
落の臺

黄身餡で白餡を包み、仕上げに洋酒を香らせました。ほろほろとした食感が楽しめる、春遠からじの落の臺です。

かん ぼ たん
寒牡丹

薯蕷を加えた練りきりでこし餡を包み、冬咲きの花ならではの美しさを表現しました。

ふくまめ
福豆

立春に先立つ二月の節分。お多福豆の餡で白餡を包み、節分にちなんだお菓子里に仕立てました。